

高等学校第3学年日本史B学習指導案

日時 平成25年9月19日(木)

指導者 教諭 井上 朋美

- 1 単元名 第1部 原始・古代 第2章 律令国家の形成
3 平城京の時代 藤原氏の進出と政界の動揺

2 単元について

(1) ねらいについて

学習指導要領の2内容とその取扱いのイ日本文化の黎明と古代国家の形成について学ぶ。日本史Bの目標に我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させることとあるが、奈良時代は唐という強力な統一国家が618年中国に建国されると、東アジアの国家は唐の脅威に対抗するために中央集権国家の建設を目指し文物、制度を積極的に取り入れていく。

日本も中国をお手本として律令制度を取り入れる。しかし律令制は日本の国情にそのまま当てはまらずに次第に矛盾が表面化する。本単元では日本における中央集権体制の形成過程とその律令体制の内容、発展を学び、また矛盾が現れそれがどのように展開していくか考えていく。

(2) 生徒の実態について

※ 省略

(3) 指導にあたって

- 単に事項の暗記に終わるのではなく、歴史には原因があり次の時代へ影響を及ぼしていることを気づかせたい。
- 資料を活用させるとともに、普段訪れる機会の少ない地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを、ICT機器を活用することで体験し、知識・理解の一層の定着、具体的で多様な情報を得た上での歴史の考察の深化を図り、歴史学習への興味や文化財保護の重要性への認識を卒業後も継続させたい。
- 論理的思考力の育成を図り、よりよく生きる力を育みたい。

ICT活用のポイント

①教師の活用

- ・導入の課題提示において、教師が撮影した写真や都を象徴する色でイメージを抱かせるなど、本時の内容を身近に感じ課題に対して興味を持つようにする。
- ・課題を明確につかませたり、史料、資料を用いてわかりやすく説明したり、知識の定着を図るために活用する。

②生徒の活用

- ・情報を自ら収集、選択し、歴史を身近に感じ自ら学ぶ意識を高めるために活用する。

3 単元の目標

- 6世紀に入り国の統一が進み、大陸の先進国から文物、制度を積極的に取り入れ、国力の充実と文化を高めるなど古代国家の形成の様子を理解する。
- 当時の政治、文化的な状況を史料、資料をもとに考察する。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家の形成と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高めている。 ・律令国家の形成と社会や文化の特色について意欲的に追求している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家の形成から課題を見だし、東アジアの動きと関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家の形成と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択している。 ・律令国家の形成と社会や文化の特色に関する情報を読み取ったり図表などにまとめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家の形成についての基本的な事柄を、東アジアの動きと関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。

5 指導計画（5時間取扱い）

- ・遣唐使の派遣 1時間
- ・平城京と地方社会 1時間
- ・藤原氏の進出と政界の動揺 1時間（本時）
- ・民衆と土地政策 1時間
- ・天平文化 1時間

6 本時の展開

- (1) 目標
- ア 当時の日本は律令制、鎮護国家の仏教など唐の制度を導入し、多大な影響を受けていた。しかし律令制の全盛期と言ってよい奈良時代にめまぐるしい政争が起こる。なぜ政争が起こったのか、またそのことが次の時代にどのような影響を及ぼしたのか考察させたい。
- イ 律令国家の繁栄の象徴のようにいわれる東大寺を中心とする天平文化が花開いた一因について理解させる。
- ウ 歴史的資料を見て、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解し、考察する力を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動、主な発問 (T) 予想される生徒の反応 (C)	指導上の留意点・評価	備考 ICT 活用
導入 5分	<p>1 本時の内容について、東大寺、小野老作の歌を提示し問題提起を行う (本時への意識を高める)。 (T)奈良を訪れたことのある人。東大寺を訪れたことのある人。 (C)ある。 (T)東大寺の大仏を見ましたか。どうでしたか。 (C)見た。大きかった。すごい。 (T)では、この歌を知っていますか。 (C)聞いたことある。</p> <p>2 天皇と皇親勢力、藤原氏、仏教勢力の関係について触れる。その際の仏教の役割について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時への生徒の興味・関心を高め、参加意欲を引き出したい。些細なことでもいいので活発に発言させたい。 プレゼンテーションソフトを使用し、教師が資料 (写真、色) を示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価1【関心・意欲・態度】 (発問やワークシートへ取り組む様子)</p> </div>	<p>プレゼンテーション資料 PC プロジェクタ ワークシート</p>
<p>課題 (めあて) 律令制の全盛期になぜめぐりし政争が起こったのか考えよう。</p>			
展開 38分	<p>3 聖武天皇と政界の動揺 藤原不比等…系図で藤原氏と皇室の関係を確認する。 ・生徒によるデータベース検索。 長屋王 藤原四子…長屋王の変後、光明子の立后が実現し、藤原氏伸張の基になったことを理解させる。 橘諸兄 藤原仲麻呂 道鏡 藤原百川…称徳天皇の死後、道鏡は失脚して藤原百川に実権が移り、平安時代に藤原氏が台頭していくことに触れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長屋王を系図によって確認し、藤原氏との関係について気づかせる。 貴族の食事についての紹介や木簡 (奈良文化財研究所木簡データベース) を使い、歴史への関心を引き起こしたい。 プレゼンテーションソフトを使用し、教師が資料 (写真、系図、音、グラフ) を示したり、史料読解の補助として使用したりする。 天然痘の流行による藤原四子の死、藤原広嗣の乱など不安を感じた聖武天皇が鎮護国家の仏教へ傾倒していったことを述べ、そのことが当時の文化 (天平文化) に現れていることに気づかせる。 	<p>プレゼンテーション資料 PC プロジェクタ ワークシート</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺の建立、東大寺、正倉院（螺鈿紫檀五弦琵琶の音）を紹介し視野を広げる。 ・系図や史料（大仏造立の詔）読解をわかりやすいようにスクリーンで示す。安都雄足を紹介し藤原仲麻呂へ焦点を移す。 ・仲麻呂の異例の昇進の様子をグラフで示し、天皇との関係が政界で力を握る上で重要であったことを気づかせる。 ・鎮護国家の仏教政策が僧侶の政界台頭の原因になったことを再認識させる。 	
<p>終末7分</p>	<p>4 平安時代…摂関政治、国風文化、荘園の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの人物評伝藤原仲麻呂に記入し、提出する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【言語活動】（設定の意図）</p> <p>言語活動の充実を図るため年度当初より人物評伝の作成に取り組んでいる。取り組みを継続させることによって主体的、探求的な活動へつなげていきたい。他者に公表することを念頭に置いて作成を進めさせる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良時代の政界の動揺の結果、藤原氏が台頭し摂関政治が出現したこと、文化の国風化、荘園の形成など平安時代へつながることを理解させる。 	<p>ワークシート</p>
<p>評価2【知識・理解】 (発問への取り組みやワークシートへの記述)</p>			
<p>評価3【思考・判断・表現】 評価4【資料活用の技能】 (人物評伝の記述)</p>			